

平成13年3月5日
原子力安全対策課
(12-107)
<00時30分資料配付>

高浜発電所2号機の調整運転中の出力降下について

このことについて、関西電力株式会社から下記のとおり連絡を受けた。

記

高浜発電所2号機（加圧水型軽水炉；定格出力82.6万kW）は、本年1月13日から第19回定期検査を実施中で、3月2日から調整運転を開始し、電気出力75%から100%に向けて出力上昇中のところ、本日20時35分頃、蒸気発生器に2次冷却水を供給している給水系（2系統）のうち、A系統にある第6A高圧給水加熱器のドレン（凝縮水）流量*の急上昇が認められた。

このため、電気出力約91%で出力上昇操作を停止し、2次系の各種パラメータを監視し、高圧給水加熱器の伝熱管漏えいの可能性があると判断されたため、点検・調査のため21時30分から出力降下を開始し、22時17分に電気出力75%とした。

電気出力75%となった時点で、伝熱管漏えいの疑いがある第6A高圧給水加熱器のドレン流量と、健全である第6B高圧給水加熱器のドレン流量とが同程度となった。

このことから、現在の運転状態では、伝熱管漏えいを示すパラメータの異常は認められないが、今後、電気出力75%で運転を継続し、第6A高圧給水加熱器ドレン流量が急上昇した原因について点検・調査を行うこととした。

なお、今回の事象による環境への放射能の影響はない。

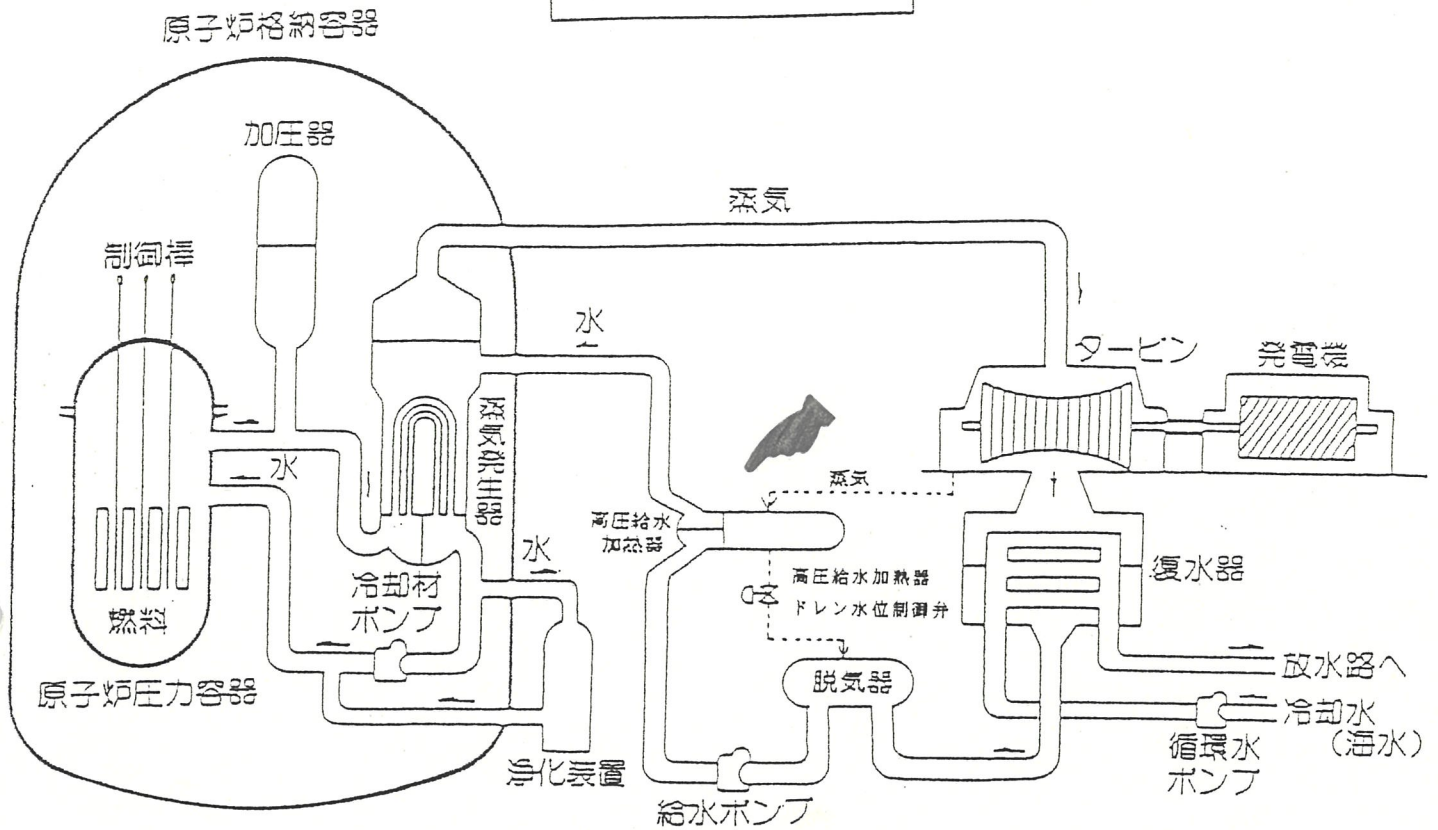
*高圧給水加熱器では、伝熱管内を2次冷却水（給水）が流れ、高圧タービンの排気蒸気を使ってこの給水を加熱している。加熱後の蒸気はドレン水（凝縮水）となり、給水系統に戻る。

高圧給水加熱器の伝熱管で漏えいが発生すると、伝熱管内を流れる給水（放射性物質を含まない）が、ドレン（凝縮水）側に漏れこむため、ドレン流量が増加する。

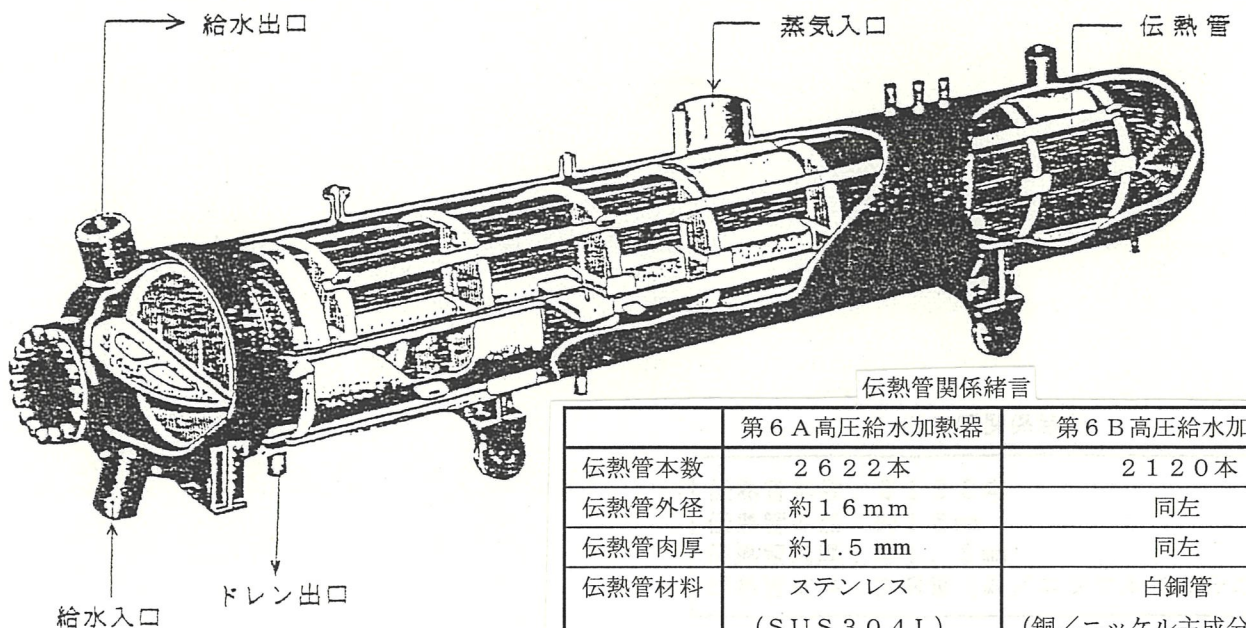
（通商産業省によるINESの暫定評価尺度）

基準1	基準2	基準3	評価レベル
—	—	0—	0—

系統概要図



高圧給水加熱器概要図



伝熱管関係緒言

	第 6 A 高圧給水加熱器	第 6 B 高圧給水加熱器
伝熱管本数	2 6 2 2 本	2 1 2 0 本
伝熱管外径	約 1 6 m m	同左
伝熱管肉厚	約 1.5 m m	同左
伝熱管材料	ステンレス (SUS 3 0 4 L)	白銅管 (銅／ニッケル主成分の合金)